

平成26年度事業別評価調書（チェックリスト）

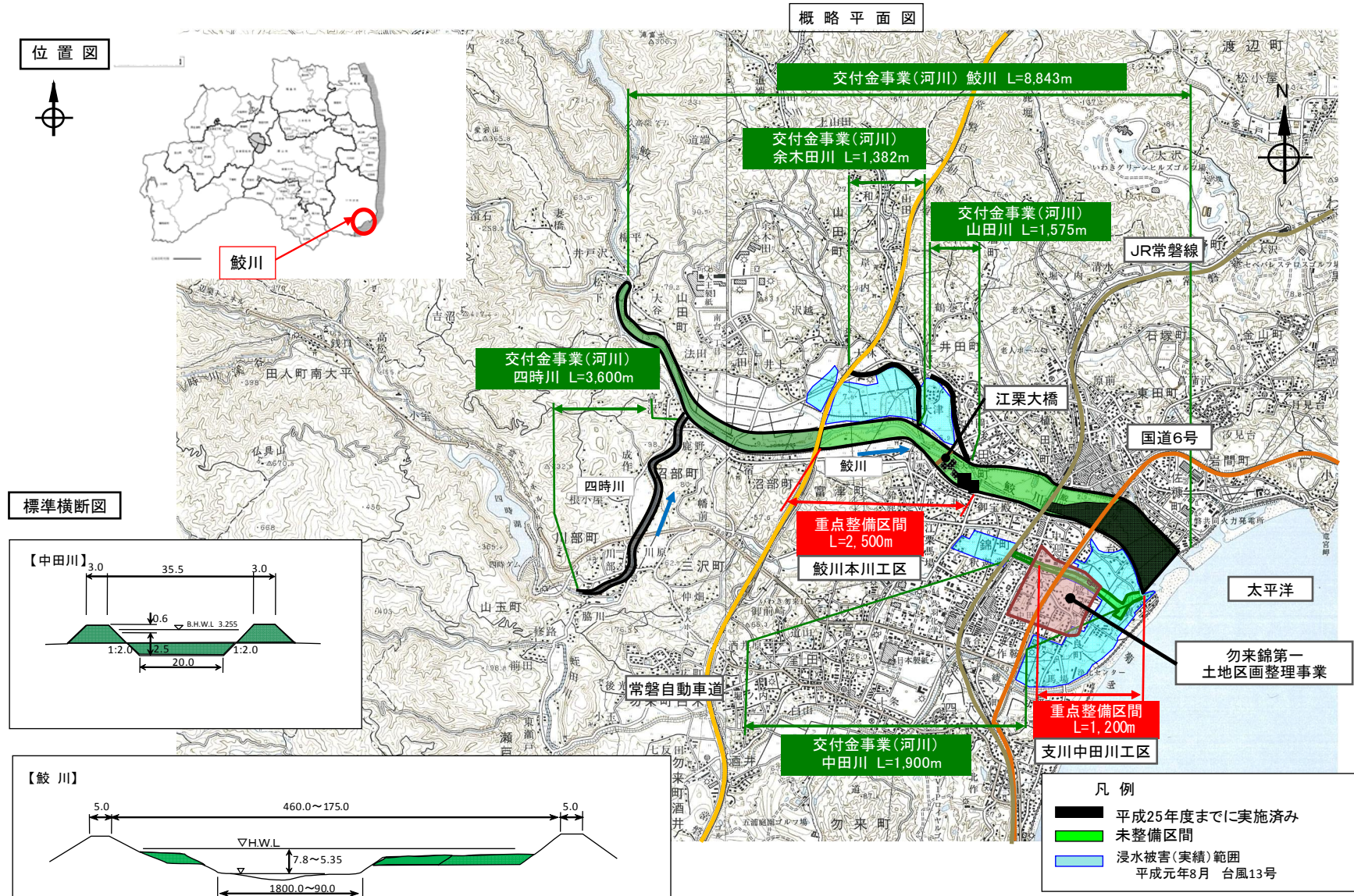
整理番号	1 2 3	事業名	交付金事業(河川)・交付金事業(住関・河川) (前回評価時：広域基幹河川改修事業)		補助 単独	地区名 (事業箇所名)	二級河川 <small>さみがわ</small> 鮫川	関係 市町村名	いわき市	担当部(局) 課名	土木部 河川整備課																									
評価の対象となる理由	第1項第4号：評価実施から5年を経過し継続中の事業					前回(平成21年度)評価時の対応方針	委員会からの提言：事業継続 付帯意見：なし			県の対応方針：事業継続																										
事業根拠法・要綱等の名称	河川法第10条、河川法第79条																																			
事業の概要	[事業目的及び全体計画] (1) 事業目的 昭和46年の台風をはじめ、度重なる洪水により多大な浸水被害が発生しているため、河積の拡大を行い、沿線の人家等への浸水被害の防止を図る。 (2) 全体計画 延長：L=17,300m 工種：掘削工、築堤工、護岸工等 [ ]は、当初計画時 < >は、H21評価時																																			
	事業の採択年度	S51	完成目標年度	[H26] H38	用地着手年度	S52	工事着手年度	S52																												
	事業費(百万円)	全体事業費 (うち用地費)	これまでの投資事業費 合計	左の財源内訳又は負担割合	これまでの年度別投資実績(26年度は見込額である。)																															
		21,405 (6,529)	9,298 (2,428)	国 1/2 県 1/2 市町村 その他	~23年度	24年度	25年度	26年度																												
進捗率	事業費ベース	43.4%	用地費ベース	37.2%	改修済延長km (%)		4.0(23.1%)																													
事業の進捗状況	[整備の状況] 平成25年度までに、本川は河口から鉄道橋までの一連区間が概成しており、現在は江栗大橋上下流の狭窄部の用地取得及び掘削工を進めている。また、支川のうち中田川は、用地取得を進めており、現在は、橋梁工事や河川の掘削に着手している。四時川については暫定改修済であり、山田川と余木田川は、改修が完了している。 [事業実施上の課題や問題点、今後の事業見通し] ・鮫川本川について、堤外民地の買収に時間を要したことにより、事業進捗に遅れが生じている。 ・今後は、鮫川本川については江栗大橋付近、支川の中田川については鮫川合流部から1.2km区間について用地取得及び改修工事を実施することにより、平成38年度の完成を目指す。 [関連事業の進捗状況] 勿来錦第一土地区画整理事業 A=64.2ha (H7~H31) (中田川)																																			
	みなし進捗率=(B)/(A)=58.3%<70%		投資済事業費 (B) =9,298 (百万円)																																	
	みなし事業費 (A) = 全体事業費21,405(百万円) × 38年 経過年数 全体工期51年		=15,949 (百万円)																																	
評価	A、 <b>B</b> 、 C																																			
事業を巡る社会経済情勢等の変化	[事業に関する社会経済情勢] (特記すべき事項) (1) 現在の状況 流域内の開発により市街化が形成され、沿川には人家が密集していることから、台風や集中豪雨等による浸水被害を防止するため、河川改修の必要性は依然として高い。 (2) 変化の有無 <b>有</b> (無) (3) 変化の内容 (4) 地域の協力体制等 地元自治体や住民による「鮫川水系河川改修促進期成同盟会」が結成されており、地域住民の河川に対する関心は高く、協力体制も整っている。 [事業に関連する評価指標等] (1) 主要な評価指標の変化 過去の被害状況																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>原因</th> <th>浸水戸数(戸)</th> <th>浸水面積(ha)</th> <th>最大日雨量(mm) (最大時間雨量)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S46.8</td> <td>台風23号</td> <td>40</td> <td>150.0</td> <td>177(23)</td> </tr> <tr> <td>S61.8</td> <td>台風10号</td> <td>36</td> <td>145.0</td> <td>337(45)</td> </tr> <tr> <td>H1.8</td> <td>台風13号</td> <td>20</td> <td>129.0</td> <td>186(32)</td> </tr> <tr> <td>H5.11</td> <td>豪雨</td> <td>31</td> <td>136.0</td> <td>148(42)</td> </tr> </tbody> </table>											年月	原因	浸水戸数(戸)	浸水面積(ha)	最大日雨量(mm) (最大時間雨量)	S46.8	台風23号	40	150.0	177(23)	S61.8	台風10号	36	145.0	337(45)	H1.8	台風13号	20	129.0	186(32)	H5.11	豪雨	31	136.0	148(42)
	年月	原因	浸水戸数(戸)	浸水面積(ha)	最大日雨量(mm) (最大時間雨量)																															
	S46.8	台風23号	40	150.0	177(23)																															
S61.8	台風10号	36	145.0	337(45)																																
H1.8	台風13号	20	129.0	186(32)																																
H5.11	豪雨	31	136.0	148(42)																																
(2) その他特記すべき事項 特になし。 [環境への影響等] 希少野生動物植物の情報に基づく対応 <b>実施</b> ・未実施( ) (1) 環境への影響内容とその対策 中田川には、準絶滅危惧種(レッドデータブックふくしま)に指定されている希少野生動物の生息が確認されていることから、これらの生物に影響の少ない工法を計画している。 (2) その他特記すべき事項 特になし。																																				
評価	A、 <b>A</b> 、 B、 C																																			

平成26年度事業別評価調書（チェックリスト）

地元住民・受益対象者及び関係機関の意向	<p>【地元住民・受益対象者の意向】</p> <p>(1) 事業採択時の状況 昭和46年の台風で浸水被害が発生したことから、早急な治水対策の実施が望まれていた。</p> <p>(2) 評価実施時の状況 「鮫川水系河川改修促進協議会」が設立される等、地元住民は河川改修事業に対して協力的であり、改修済み区間では浸水被害の軽減が図られているが、未整備区間では依然として河積狭小な区間が残っていることから、台風や豪雨による浸水被害を防止するため、未整備区間の早期完成を強く望んでいる。</p> <p>【関係機関・団体の意向】</p> <p>(1) 事業採択時の状況 地元（いわき市）から、早急な治水対策の実施が望まれていた。</p> <p>(2) 評価実施時の状況 改修済み区間では、浸水被害の軽減が図られているが、未整備区間では依然として河積狭小な区間が残っていることから、台風や豪雨による浸水被害を防止するため、未整備区間の早期完成を強く望んでいる。</p>	計画変更の必要性・コスト削減や代替案立案等の可能性	<p>【計画変更の必要性】</p> <p>(1) 必要性の有無      有      ● <b>無</b></p> <p>(2) 計画変更の理由及び内容</p> <p>【代替案立案の可能性】</p> <p>なし</p> <p>沿川の地形と土地の利用状況から、鮫川本川は現河川改修案、支川中田川は新川開削案以外の方法は考えられない。</p> <p>【コスト削減の取組等（特記すべき事項）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣他工事への発生土流用を積極的に進めている。</li> <li>・護岸裏込め採石等への再生骨材利用を積極的に進めている。</li> </ul>								
	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">評価</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"><b>A</b></td> <td style="padding: 2px;">B、</td> <td style="padding: 2px;">C</td> </tr> </table>	評価	<b>A</b>	B、	C						
評価	<b>A</b>	B、	C								
費用対効果分析等の要因の変化	<p>【費用対効果分析等】</p> <p>(1) 手法 「治水経済調査マニュアル（案）」（平成17年国土交通省河川局通知）に基づき、洪水シミュレーションにより算出した、想定氾濫区域における資産等の被害額から事業を実施したことによる被害軽減額を算出し、その便益と治水施設の完成に要する今後の事業費及び維持管理費により、効果分析を行う。</p> <p>(2) 費用対効果の変化</p> <table style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align: center;">[前回評価時]</td> <td style="width:50%; text-align: center;">[今回評価時]</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <math display="block">B/C = \frac{634,785 + 529\text{百万円}}{19,135 + 2,325\text{百万円}} = \frac{635,314}{21,460} = 29.60</math> </td> <td style="text-align: center;"> <math display="block">B/C = \frac{677,531 + 644\text{百万円}}{22,892 + 2,786\text{百万円}} = \frac{678,175}{25,678} = 26.41 (\geq 1.00)</math> </td> </tr> </table> <p>B：河川事業における総便益（氾濫防止便益＋残存価値の合計） C：河川事業に要する総費用（河川改修に要する事業費＋河川維持管理に要する費用の合計）</p> <p>【費用の変化等で特記すべき事項】 総費用額が前回評価時と異なる理由としては、年度投資計画の見直しに伴う割引率の変更により、事業費及び維持管理費が変更となったため。</p> <p>【需要効果の変化等で特記すべき事項】 総便益額が前回評価時と異なる理由としては、人家戸数の変動や資産価値の見直し、年度投資額の見直しに伴う割引率の変更により、氾濫防止便益が変更となったため。</p>	[前回評価時]	[今回評価時]	$B/C = \frac{634,785 + 529\text{百万円}}{19,135 + 2,325\text{百万円}} = \frac{635,314}{21,460} = 29.60$	$B/C = \frac{677,531 + 644\text{百万円}}{22,892 + 2,786\text{百万円}} = \frac{678,175}{25,678} = 26.41 (\geq 1.00)$	総合評価	<p>【総合評価と対応方針案】</p> <p>(1) 総合評価</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 改修済み区間においては、浸水被害の軽減が図られているが、未整備区間においては、依然として河積狭小な区間が残っていることから、台風や豪雨による浸水被害を防止するため、今後も計画的に整備を進める必要がある。 </div> <p>(2) 対応方針及び今後の事業の進め方</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="width:20%; padding: 5px;">対応方針案</td> <td style="padding: 5px;">事業継続</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">今後の事業の進め方</td> <td style="padding: 5px;">計画的な投資により、事業を推進する。</td> </tr> </table> <p>(3) 事業見直し継続、休止、中止する場合の対応</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 10px;"></div>	対応方針案	事業継続	今後の事業の進め方	計画的な投資により、事業を推進する。
[前回評価時]	[今回評価時]										
$B/C = \frac{634,785 + 529\text{百万円}}{19,135 + 2,325\text{百万円}} = \frac{635,314}{21,460} = 29.60$	$B/C = \frac{677,531 + 644\text{百万円}}{22,892 + 2,786\text{百万円}} = \frac{678,175}{25,678} = 26.41 (\geq 1.00)$										
対応方針案	事業継続										
今後の事業の進め方	計画的な投資により、事業を推進する。										
	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">評価</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"><b>A</b></td> <td style="padding: 2px;">B、</td> <td style="padding: 2px;">C</td> </tr> </table>	評価	<b>A</b>	B、	C						
評価	<b>A</b>	B、	C								

平成26年度事業別評価調書 (チェックリスト)

[位置図] 及び [事業概要図]



(別紙)

## 費 用 対 効 果 分 析

交付金事業（河川） 二級河川 鮫川

$$\frac{\text{効果（便益） B}}{\text{費 用 C}} = \frac{\text{B①} + \text{B②}}{\text{C①} + \text{C②}}$$

### [費用項目]

- C①：治水施設完成に要する事業費（施設の建設費、用地費、補償費）
- C②：評価対象期間内での維持管理費

### [効果項目]

- B①：氾濫防止便益
  - ・河川改修により氾濫によって生じる被害（家屋や土地、農作物、公共土木施設および氾濫によって間接的に生じる営業停止などの被害額）
- B②：評価期間末における施設の残存価値

### [考え方]

- ・現在（平成25年度）を基準年度として工事期間と完成後50年間に生じる効果額、費用を算出し比較する。
- ・維持補修費は、各年事業毎の0.5%を維持管理費として事業完了後の50年分まで毎年見込み、これを割引率により現在価値化して計上している。
- ・便益は、整備された箇所から事業費に相当する便益が順次発生するものとし、さらに河川事業の耐用年数から事業完了の50年間発生する便益を割引率により現在価値化して計上する。

### 計算例

$$\frac{677,531\text{百万円} + 644\text{百万円}}{22,892\text{百万円} + 2,786\text{百万円}} = 26.41$$